

三河の昆虫

MIKAWA NO KONCHU

The Mikawa Insects Association



2011年3月

〒444-3511

岡崎市舞木町狐山6-4

大平仁夫方

三河昆虫研究会発行

(郵便00830-9-14465)

三河本宮山の山頂部で採集したコメツキムシ類

大平仁夫

三河本宮山(標高789m)の山頂部は、額田町、一宮町、新城市、作手村の接点となっていて、大合併前は岡崎市(宮崎町)、豊川市(一宮町)、新城市(作手町)となったが、山頂部の合流地の境界は複雑に入りこんでいる。ここでの山頂部は通信施設が乱立している山頂部とその前の広場周辺で、岡崎市宮崎町である。

そのアセビ群落は伐採されて、現在はツツジの群落に再生されており、この花には多くの吸蜜昆虫類が飛来しているの、主としてそこで採集したコメツキムシ類をここに記録した。

この山頂部のコメツキムシ類について、すでに大平(2003, 2006)が報告しているが、このたび3種の新記録種を見出すことができた。この種については和名の末尾に(*)印を記した。なお、ここに記録した種の採集年はすべて2010年で大平本人の採集であるので、本文中の記録の年と採集者名は省略した。

本文を草するにあたり、採集に支援をいただいた三河昆虫研究会副会長の山崎隆弘氏に心から感謝の意を表する。

種の記録

1. *Agrypnus binodulus binodulus* (Motschulsky, 1861)

サビキコリ

標本: 2♂♂1♀, 6-VI; 1♀, 24-VI.

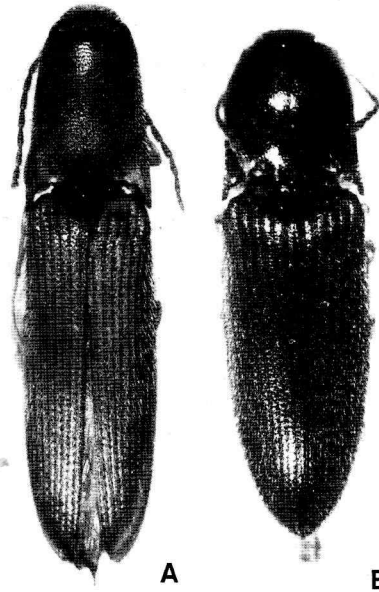
山頂部からは大平(2003)の記録がある。

2. *Agrypnus scrofa scrofa* (Candèze, 1873)

ヒメサビキコリ(*)

標本: 1♂, 5-VIII.

低地の河川敷や荒れ地に分布する種である。こ山頂部からは、これが最初の記録と思われる。



3. *Pectocera fortunei fortunei* Candèze, 1873

ヒゲコメツキ

標本: 1♂1♀, 6-VI.

普通種であるが、本宮山からの記録は少なく、山崎(1985)がある程度である。

4. *Hemicrepidius secessus secessus* (Candèze, 1873)

クロツヤハダコメツキ

標本: 1♂, 24-VI.

雑木山林に普通の種である。本宮山からは大平(1985)が記録している。

5. *Cidnopus marginicollis* (Lewis, 1894)

ウスチャイロカネコメツキ

標本: 1♂1♀, 24-VI.

里山周辺の雑木林に分布する種である。山頂部から大平(2006)が1♀個体を記録している。

6. *Hayekpenthes pallidus pallidus* (Lewis, 1894)

ホソツヤケシコメツキ (*) (図 A)

標本: 3 ♀♀, 5-VIII.

広葉雑木林に分布する暖地系の種である。愛知県では主として三河地方の山林に分布。成虫は花上で見出されている。本宮山からこれが最初の記録で、山頂部のリョウブの花に飛来していた。

体長7mm内外、体は黄褐色で円筒形状。愛知県では主として三河の山間部から記録されていて岡崎市(大幡), 豊川市(音羽), 豊田市(猿投, 旭, 稲武), 新城市(作手, 鳳来)などが主な産地であるが、尾張地域では名古屋(東山)が知られているのみである。

7. *Ampedus carubanculus* (Lewis, 1879)

ヒメクロコメツキ

標本: 1 ♂ 2 ♀♀, 6-VI; 2 ♀♀, 24-VI.

成虫は春先にカエデや栗などの花上で見出される。山頂部のツツジ類花に飛来していた。

8. *Dolerosomus gracilis* (Candèze, 1873)

キバネホソコメツキ

標本: 1 ♂ 1 ♀, 5-VIII.

雑木林のガマズミ類の花上で見られる種である。山頂部のリョウブの花に飛来していた。

9. *Mulsanteus junior junior* (Candèze, 1873)

ヒゲナガコメツキ

標本: 1 ♂, 24-VI.

本宮山からは大平(1984)が記録しているが、その詳しい採集地点は不明である。

10. *Melanotus correctus correctus* Candèze, 1865

ヒラタクロクシコメツキ

標本: 1 ♂ 1 ♀, 24-VI.

雑木山林に生息する普通種である。この山頂部からは大平(2003)が記録している。

11. *Melanotus senilis senilis* (Candèze, 1865)

ククロクシコメツキ

標本: 1 ♀, 24-VI.

農耕地や牧草地などに多い種である。この山頂部から大平(2003)が記録している。

12. *Melanotus erythropygus erythropygus* Candèze, 1873

コガタクシコメツキ

標本: 2 ♂ 2 ♀, 24-

雑木林に普通種である。この山頂部から大平(2003)が記録している。

13. *Glyphonyx bicolor bicolor* Candèze, 1893

キバネクチボソコメツキ (*) (図 B)

標本: 1 ♀, 5-VIII.

東三河地域では点々と記録されている。本宮山からの記録はこれが最初である。この山頂部のリョウブの花に飛来していた。

愛知県から知られている主な産地は、豊橋市、豊川市、新城市、東栄町、設楽町(段戸裏谷)などであるが、豊根村の茶臼山からも1例の記録がある。どこでも単独か少数個体で見出されている。

14. *Parasilesis musculus musculus* Candèze, 1873

クチブトコメツキ

標本: 1 ♀, 24-VI.

三河地方の山岳地帯では普通の種である。

引用文献

- 大平仁夫(1984) 松野更一氏が採集した三河地方のコメツキムシについて。鳳来寺山自然科学博物館報, (14): 1-12.
 大平仁夫(1985b) 山崎隆弘氏採集の三河地方のコメツキムシ。三河の昆虫, (32): 170-178.
 大平仁夫(2003) 本宮山頂部のコメツキムシの記録。三河の昆虫, (50): 562.
 大平仁夫(2006) 三河地方から採集されるコメツキムシについて(24)。三河の昆虫, (53): 630-631.
 山崎隆弘(2008a) 会誌「三河の昆虫」掲載の本宮山の昆虫。

参考文献

- 三河本宮山昆虫誌: 98-100. (三河昆虫研究会編)
 山崎隆弘(2008b) 本宮山関係昆虫文献目録。同上: 101-106

豊田市におけるヒメタイコウチの記録

市川 靖 浩

豊田市は2005年4月1日に周辺町村と合併し、愛知県下最大の面積を有する市となった。合併前の旧市域におけるヒメタイコウチ *Nepa hoffmanni* Esaki の記録は、豊田市自然環境基礎調査(資料編)にまとめられ(豊田市, 2005)、その分布が整理された。

今回は、合併前の旧町村におけるヒメタイコウチの記録が少ないことから、筆者が採集した産地について未記録と思われるので、分布記録として報告する。

●豊田市深見町白地釜

29-Ⅷ-2010, 1 ex (5 齢幼虫)

11-Ⅸ-2010, 2 ♂ 3 ♀

12-Ⅸ-2010, 1 ♂

13-Ⅸ-2010, 3 ♂

ため池を中心にその上流部の湧水のある湿地、そこから流れる水路の岸辺及びため池に整備された湿地性植物の植栽スペースにおいて採集。

●豊田市西中町長根

17-Ⅸ-2010, 1 ♂

ため池の岸辺にある水溜りにおいて採集。

●豊田市西中山町十七屋

10-Ⅹ-2010, 1 ♂

田の素掘水路の水溜りにおいて採集。

●豊田市久木町神ノ木

29-Ⅷ-2010, 1 ex (5 齢幼虫)

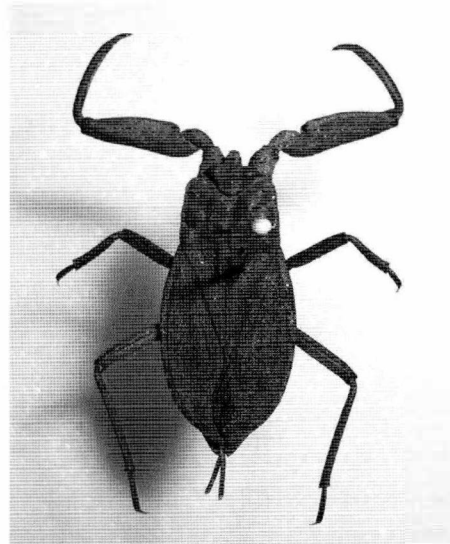
19-Ⅸ-2010, 1 ♂ 1 ♀

林縁部の素掘水路の水溜りにおいて採集。

以上の産地のうち深見町と西中山町は旧藤岡町、久木町は旧足助町である。生息環境は丘陵部の湧水のある湿地か水路及びため池の岸辺などの湿潤地である。

西中山町十七屋の農業用水路は、その後の調査でヒメタイコウチは確認できなかった。久木町神ノ木の産地については、近隣の山林が開発されて失われた経緯があり、今後において開発による産地の消滅が懸念される。

なお、末筆ながら久木町の調査に同行し、貴重な情報を提供して頂いた水野陸穂氏に感謝申し上げる。



(豊田市深見町白地釜, 11-Ⅸ-2010, ♂)

参考文献

長谷川道明・佐藤正孝・浅香智也, 2005. ヒメタイコウチの分布, 付関連文献目録. 豊橋市自然史博物館研究報告, 15: 15-27.

田中蕃・山田真澄, 2005. カメムシ目 Hemiptera. 158-159. 豊田市自然環境基礎調査報告書(資料編), 豊田市自然環境基礎調査会, 豊田市.

大平仁夫, 2009. 豊田市黒坂町でヒメタイコウチを採集. 三河の昆虫, 56: 688.

矢崎充彦, 2009. 矢作川河畔林調査で確認された半翅類. 矢作川研究, 13: 29-38.

岡崎市北山湿地のムラサキツバメの記録

吉鶴 靖則・川田 奈穂子

ムラサキツバメ *Narathura bazalus* (Hewitson) はかつて愛知県に土着していなかったチョウで、1980年代では奈良県・滋賀県あたりまでの記録しかない(福田ほか, 1984)が、現在は関東地方まで分布拡大している(白水, 2006)。分布拡大の要因には、マテバシイの街路樹や公園への移植に伴う移動などが推定され(白水, 2006)、名古屋市やその近郊では植栽樹が丹念に調査され分布域が明らかにされている(大池ほか, 2007)。岡崎市では2009年の記録(判家, 2010)が最初のものである。

筆者はこのような植栽樹周辺での記録が多いムラサキツバメを北山湿地で目撃し、撮影に成功したので、ここに報告する。北山湿地は環境省により「日本の重要湿地500」に選定され、岡崎市自然環境保全条例で岡崎市自然環境保護区に指定される良好な自然環境を有する場所である。

[記 録]

岡崎市池金町 北山湿地, 4-IV-2010, 1ex.

目撃: 吉鶴・川田(撮影)

図のように本種の特徴を示す尾状突起がないほど翅はすれや破損が目立ち、越冬の厳しさを物語るような個体であった。



参考文献

- 福田晴夫・浜栄一・葛谷健・高橋昭・高橋真弓・田中蕃・田中洋・若林守男・渡辺康之(1984) ムラサキツバメ: 83-87. (保育社)
- 判家卓司(2010) 岡崎市で未記録の3種の昆虫について 三河の昆虫, (57): 716.
- 大池崇資・長谷川政美・鈴木隆(2007) 名古屋市および名古屋市近郊におけるムラサキツバメ, 佳香蝶, 59(230): 17-19
- 白水隆(2006) ムラサキツバメ, 日本産蝶類標準図鑑: 90-91. (学習研究社)

三河山間部のトウカイコルリクワガタの追加記録

城 殿 浩

筆者は三河山間部に分布するルリクワガタ属の分布調査をしてきたが、豊田市(旧稲武町)において新たな産地を確認した。また、以前に確認された産地で、その後の追加記録がなかった設楽町(旧津具村)で成虫を確認したので報告する。いずれもトウカイコルリクワガタ基亜種で学名は *Platycerus takakuwai takakuwai* である。いずれも広葉樹の材より採集した。

◇1♂1♀, 愛知県豊田市大栗山, 17-IV-2010, 城殿 浩

◇1♂, 愛知県北設楽郡設楽町丸山, 25-IV-2010, 城殿 浩.

参考文献

- 城殿 浩(1999) 三河の昆虫, (46): 462-464; - (2000) 同上, (47): 489-490; - (2006) 同上(53): 633-634; - (2008) 同上(55): 684-685.

ヒゴトゲハムシ愛知県新城市作手に産する

山崎隆弘

ヒゴトゲハムシ(*Dactylispa higoniae*, (Lewis, 1896))は、国内では本州・四国・九州に分布し、海外では中国南部から台湾に分布する暖地系の種である。寄主植物は三河地方に多いムラサキシキブで、ほかにヤブムラサキが知られている。

[愛知県におけるヒゴトゲハムシの分布の概要]

これまでの記録を見てみると、豊田市の勘八町・西広瀬町・幸海町・穂積町・市木町南山・羽布町根山と、すべて西三河地域の豊田市から見出されている。

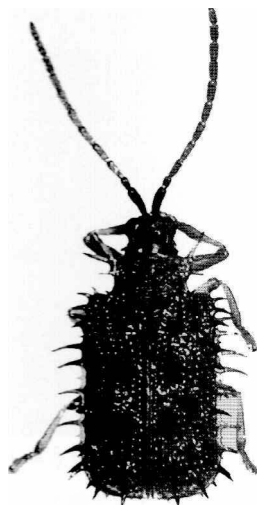


ヒゴトゲハムシが採集された新城市作手高里の山

のはこれが最初と思われるものである。この場所は、豊田市で記録した羽布町根山とは比較的近い位置にあり、連続した山域でもあるので、東三河地域においては最も息の可能性がある場所ともいえよう。今後、さらに当周辺地域一帯において精査すれば、新に見出されることもあり得るだろう。

[採集データ]

Iex., 愛知県新城市作手高里, 28-V-2010, (ムラサキシキブ), 山崎隆弘採集(図1).



ヒゴトゲハムシ(新城市作手高里採集の個体)

[調査の概要]

東三河地方にも寄主植物のムラサキシキブが多く生育しているので、本種が採集されることはそれほど難くはないと思って、採集調査時に注意して発見に努めたが、不思議と採集されることはなかった。半ばあきらめていた矢先であった。新城市作手高里地内の雑木林(図2)でピーティングをした際であるが、偶然にも1頭だけであるが、ついに見出すことができた。東三河から記録する

[愛知県におけるヒゴトゲハムシ関係の主な文献]

1. 豊田市建築住宅課(1994)幸海町・穂積町地区宅地造成工事に係る自然環境調査報告書。
2. 山崎隆弘(2009)豊田市で採集した興味ある甲虫類。三河の昆虫(56): 689-692.
3. 鶴靖則(2010)旧豊田市で記録の少ない種類についての報告昆虫(その3)。三河の昆虫(57): 721-723

作手のハネビロトンボと一時的発生の有無の考察

吉鶴 靖則・川田 奈穂子

【はじめに】

ハネビロトンボ *Tramea virginia* (Rambur) は愛知県ではかつて「毎年のようにどこかで記録されるものの、個体数はそれほど多くない（安藤ほか、1990）」とされたが、「ここ10年位は非常に稀となっている（安藤、2006）」トンボである。筆者はこれまで記録がないと思われる愛知県新城市（旧作手村地域）でハネビロトンボを観察すると共に、当地および県下で親個体が迷入、産卵し、次世代の成虫が一時的発生する可能性を考察したのでここに報告する。

ハネビロトンボの旧作手村の状況をご教示いただいた吉田雅澄氏に厚くお礼申し上げます。

【記録】

新城市作手岩波長ノ山（天神上池および天神中池）、26-VII-2010、2♂目撃；27-VII-2010、2♂1♀目撃

記録地は海岸から直線で20kmほどの内陸部で、標高は520～530mの地点である。写真は吉鶴が撮影した分を使用した。

【観察内容】

いずれも目撃記録であるが、翅の欠損状況から少なくとも2♂おり、縄張りをめぐる闘争行動などの観察からは3♂の可能性もあったが、3頭目のオスの確実な証拠は得られなかった。26・27両日の2♂はおそらく同一個体である。なお、図1と図2は共に27日に撮影したもので、左前翅の欠損状況が異なるものを明示した。

26・27日ともオスが池の広い範囲を飛んで縄張りを占有していたが、ときおり池畔のヒノキやスギ、アカマツの木の上に舞い上がることもあり、樹冠を越えて視界から消えることもあった。静止するときは池畔の枯れたススキに留まることもあった（図1）が、樹高10mを超える木の上で留まることもあった。また、縄張りを飛翔中のハネビロトンボは、その飛翔ルート付近で縄張りを形

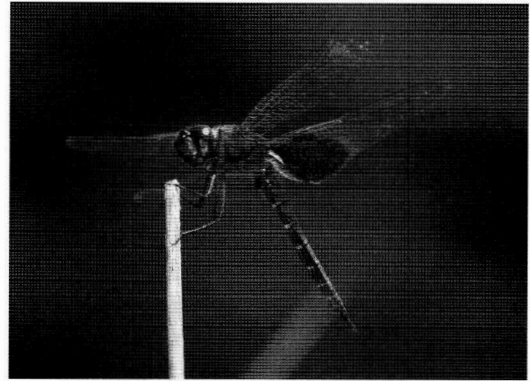


図1 ススキにとまったハネビロトンボ（左前翅に欠損あり）

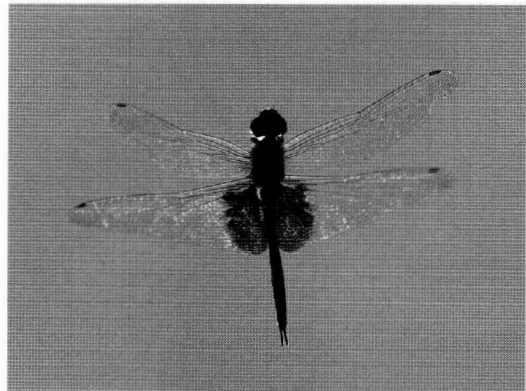


図2 「ふわっ」と宙に浮くハネビロトンボ（左前翅は正常）

成していたショウジョウトンボとネキトンボにしばしば追われるように争っていた。

27日には下記のような交尾・産卵行動を観察した。

- (1) 池の水面上を飛翔しながら交尾
- (2) その後、メスが離れて単独で打水産卵。その間はオスがすぐ上空でホバリングしながら待機
- (3) メスは産卵後に待機していたオスと再び連結
- (4) 何度も2と3の産卵と連結を繰り返す

これらは石田ほか（1988）で述べられた交尾・産卵行動の1つの形態であり、秋の発生を期待させるものであったが、秋に複数回探索したものの残念ながら確認できなかった。

また、樹冠のような高いところに上がった後、おそらく上昇気流があるところで風が飛ぶように風を受け、ゆるやかに降りてくる姿を何度も観察した。通常トンボ類が行う小刻みに翅を振るわせてホバリングするものと違い、翅は動かさずに「ふわっ」と宙に浮いているようで、撮影時にきれいに翅を写し止められた(図2)。このような飛翔行動で撮影できた種類は経験がなかったため、興味深く感じられた。

【考察】

一般に迷入記録は偶然に左右されるため、多くは単独個体である。そのためか、複数個体が同一地点で見られた場合、しばしばその場所で発生したと考えられ、定着や一時的発生の可能性があると考えられてきた。今回はまさにその状況となる複数個体であったため、一時的発生の有無を考察した。このとき今回の記録だけでは情報量が少ないため、愛知県下の以下の記録で行った。

記録は一時的発生の可能性が低い単独の記録と、一時的発生が想定されがちな複数の記録とに分けて記述した。また、同一個体の産卵で一時的発生をした場合、産卵日のずれ、幼虫期の成長の差による羽化のずれ、成虫の寿命範囲内で、採集日が異なることがありうると想定できた。これをそれぞれ1~2週間、1~2週間、1ヶ月と仮定すると、2ヶ月以内に同一地点で採集されたものは、採集漏れの個体が後日に採集された可能性があると考えられた。今回記録をまとめたところ、一見単独に見られる記録などで、同一地点で別日に採集された記録の日付の差は2ヶ月未満だったため、これは1ヶ所の複数記録としてまとめることとした。

<単独の記録>

単独での迷入記録と考えられたものは、以下の11回である。

豊橋市石巻町, 31-VIII-1956, 1♂(安藤ほか, 1990) / 岡崎市藤川町, 30-VIII-1958, 1♂(安藤ほか, 1990) / 長久手町前熊一の井, 16-IX-1974, 1♂(安藤ほか, 1990) / 長久手町北熊,

10-VIII-1975, 1♂(安藤ほか, 1990) / 日進町機織池, 9-VIII-1987, 1♂(高崎, 1987) / 名古屋市名東区塚ノ杈池, 16-VIII-1987, 1♂(高崎, 1987) / 藤岡町木瀬清水池, 1-VIII-1989, 1♂(山本, 1993) / 豊田市手呂町, 20-VIII-1989, 1♂(山本, 1993) / 豊田市西広瀬町堀田池, 30-VI-1991, 1♂(山本, 1993) / 豊田市八草町上小江戸, 2-IX-1994, 1♂(山本, 2000) / 犬山市前原, 8-IX-1998, 1♂(安藤, 2006)

<複数の記録>

同一地点で複数個体が採集されたと考えられる記録は、以下の16回である。なお、春日井郡品野町沓掛と瀬戸市定光寺町等は地名が変更された同一地点、もしくは近隣の記録と扱い、1回として数えた。

春日井郡品野町沓掛(定光寺宮前池), 20-VII-1963, 1♂(山本, 1965); 28-VII-1963, 推定1♂目撃(高崎, 1963) / 田原町吉胡, 18-VIII-1963, 3♂(安藤ほか, 1990) / 春日井郡品野町沓掛, 25-VII-1964, 1♂; 23-VIII-1964, 1♂; 6-IX-1964, 1♂(山本, 1965); 瀬戸市定光寺町, 12-IX-1964, 2♂(安藤ほか, 1990) / 瀬戸市定光寺町, 19-VIII-1967, 3♂(安藤ほか, 1990) / 瀬戸市定光寺周辺, 12-VIII-1968, 2♂; 23-IX-1968, 2♂(松井ほか, 1974); 瀬戸市定光寺町, 25-VIII-1968, 3♂(安藤ほか, 1990) / 瀬戸市定光寺周辺, 15-VII-1969, 1♂; 30-VII-1969, 1♂; 6-VIII-1969, 2♂; 30-VIII-1969, 3♂; 7-IX-1969, 1♂(松井ほか, 1974) / 緑区鳴海町黒石, 15-IX-1969, 1♂採集3♂目撃(清水ほか, 1976) / 瀬戸市定光寺周辺, 2-VII-1970, 2♂; 20-VII-1970, 1♂; 9-VIII-1970, 4♂(松井ほか, 1974) / 長久手町前熊, 31-VII-1974, 1♂; 16-IX-1974, 1♂(清水ほか, 1976) / 岡崎市稲熊町, 8-VII-1975, 1♂; 18-VII-1975, 1♂(鈴木, 1975) / 瀬戸市南山町, 7-IX-1975, 2♂(安藤ほか, 1990) / 長久手町北熊, 22-VIII-1982, 3♂(安藤ほか, 1990) / 長久手町前熊, 8月下旬~9月上旬-1987, 1♀1ex.~2exs.(高崎, 1987) / 藤岡町木瀬清水池, 22-VII-1990, 1♂; 4-VIII-

1990, 1♂ (山本, 1993) / 愛知郡長久手町熊張阿畑, 27-VIII-1990, 2♂ (安藤, 2006) / 新城市作手岩波長ノ山, 26-VII-2010, 2♂目撃; 27-VII-2010, 2♂1♀目撃 (今回)

<定着、越冬を伴う一時的発生の可能性>

県下で次世代の発生を考慮して調査した記録は少ないが、定光寺のもので、前年記録された場所で確認された場合でも突如として老熟個体が現れること、抜け殻が見つからないことなどから定着は否定的で、飛来を推定したもの (山本, 1965) がある。この他、翌年以降の追跡で確認できなかった報告は若干見受けられる (鈴木, 1985; 高崎, 1987) が、県下での定着や越冬を伴う一時的発生を示す記録は、現在のところ見受けられず、越冬を伴う発生には否定的である。

今回の観察地は泥炭層を形成している長ノ山湿原の南方500m程にあり、周囲を標高600~700mの山々に囲まれた、夏季でも低温多湿な寒冷な環境である。そのため、前年に飛来して産卵していた場合、水温が低く、ヤゴが越冬できる環境がないと思われ、今回の記録も越冬を伴う定着や一時的発生は考えづらかった。

<一時的発生>

ハネビロトンボはヤゴが低温下で越冬できないため、確実な土着域は福岡県大牟田市および高知県高知市以南とされ、愛知県では主に7月下旬から9月に記録される迷入種である (石田ほか, 1988)。

親個体の産卵で次世代の成虫が生じる一時的発生をするためには、卵期5~9日、幼虫期が最短88日 (山本ほか, 2009) のため、約3ヶ月を要する。愛知県で最も早い記録は7月2日 (松井ほか, 1974) で、このときにメスが産卵したとすると、その子孫が羽化するのは早くても10月上旬となる。しかし、もっとも遅い記録は9月23日 (松井ほか, 1974) である。土着地の高知では4月下旬から11月上旬で成虫が見られる (杉村ほか, 1999) ことから、土着地と同じ条件では一時的発生の可能性はありうるが、現状のデータを重視すると一時的

発生が県下で起きた可能性は低いと考えられる。

また、今回の個体が最短で成虫になったものと仮定すると、親個体の産卵日は4月24日となる。ただし、水温が低ければ幼虫期が長くなると想定できるため、少なくとも4月上旬~中旬には親個体が飛来・産卵する必要が生じ、その親個体の羽化は3月中旬~4月上旬になることが想定された。したがって、今回の記録を一時的発生と考えるには、少々無理があると考えられた。

<偶然的な同所的飛来 (未発生) >

ハネビロトンボは、未熟個体が羽化水域から遠く離れたところで過ごす際、単独あるいは少数で飛翔している (杉村ほか, 1999) ことから、生態的に複数で移動する性質を持つ可能性がある。

また、台風や低気圧等の通過後や、強い季節風が吹いた直後に発見されることが多い (蜻蛉研究会, 1998) ことから、何らかのイベントで動きやすい種類のようなものである。瀬戸市定光寺付近は、一見ここでの定着が考えられるほど記録が集中しているが、このような例の多さから、ある程度一定化した飛来コースや水域環境の選り好みが見られる (蜻蛉研究会, 1998)。そのため、一つのイベントで別々に移動した個体が複数いれば、これらがより適した生息環境に移動し、同所に集まってくることで複数記録になる可能性があると思われる。別日に同一地点で採集された記録の多さは、別々の飛来個体が集合した例と解釈することも可能である。

ハネビロトンボは未熟個体が羽化水域を遠く離れた丘上や山腹の林、草むらに移動し、成熟すると水辺に戻る (杉村ほか, 1999)。したがって、水辺で見られた場合、羽化後間もない個体以外は、移動を経験した成熟個体の可能性が高い。このことは、羽化場所への回帰性がなければ、記録した水辺での一時的発生は考えられないことになる。そもそも回帰性があれば迷入例は少なくなると思われるため、回帰性は考えにくい。

これらのことから、同一地点の複数個体が一時的発生を示す根拠とはなりえないと考えられた。

【今後の課題】

＜メスとヤゴの重点的探索の必要性＞

発生するためにはメスの存在と産卵行動の観察記録、産卵の証明となるヤゴの確認は不可欠である。しかし、メスの記録は産卵の有無に関わらず、本報告以外では長久手町前熊のもの（高崎, 1987）のみであり、記録そのものが少なく、ヤゴやその抜け殻の記録も県下では無いようである。

メスの記録が少ない原因には、メスがそもそも移動しづらく、本当に記録されていない可能性も考えられるが、もっとも疑わしいのは、メスの生態そのものの問題により、移動先で発見しづらいことである。オスは池畔等の目立つ場所でなわばりを作るために発見しやすいが、メスは目立つ場所に出てこないためである。

したがって、メスの記録の少なさが一時的発生を否定するまでに至らず、メスの飛来を考慮に入れた探索、および、一時的発生に不可欠なヤゴやその抜け殻の探索が必要であると考えられた。

＜春～初夏の探索の必要性＞

夏～秋に一時的発生した場合、産卵個体の飛来が想定される時期は少なくとも4月下旬～5月以降となる。しかし、この季節での採集例はオス・メス共に今回記録を見つけれなかった。一時的発生を考える上では、少なくとも6月上旬以前の飛来個体の探索が必要と考えられた。

【結論】

ハネビロトンボの作手の観察個体は、現地での一時的発生の可能性は低く、複数での飛来、もしくは単独飛来個体が集合したものの可能性が高いと考えられた。また、ハネビロトンボの県下での一時的発生はあり得るが、それを裏付けるデータに乏しく、発生例があったとしても件数的には少ないと考えられた。

引用文献

- 安藤尚 (2006) 愛知と岐阜のトンボ・分布資料 (5). 佳香蝶. 58(225): 9-16
 安藤尚・山本悠紀夫・高崎保郎・相田正人 (1990) 愛知

県のトンボ目. 愛知県の昆虫 (上): 9-78. (愛知県農地林務部自然保護課)

石田昇三・石田勝義・小島圭三・杉村光俊 (1988) ハネビロトンボ. 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説: 128-129. (東海大学出版会)

松井一郎・清水典之・鶴殿清文 (1974) 愛知県定光寺付近の蜻蛉相. 佳香蝶. 26 (100): 101-104.

清水典之・鶴殿清文・鶴殿 茂 (1976) 名古屋市東南部の蜻蛉相. 佳香蝶. 28 (105): 5-10.

杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司 (1999) ハネビロトンボ. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑: 871-873. (北海道大学図書刊行会)

鈴木栄二 (1975) 岡崎市でハネビロトンボを採集する. 三河の昆虫. (12-13): 51.

鈴木栄二 (1985) 岡崎市のトンボ類. 新編 岡崎市史 自然 14: 811-837. (新編岡崎市史編さん委員会)

高崎保郎 (1963) 蜻蛉の新分布三題. 佳香蝶. 15 (55): 105-106.

高崎保郎 (1987) 塚ノ杵池とその周辺 (名古屋市名東区) のトンボ (第2報). ため池の自然. (6): 13. (ため池の自然研究会)

蜻蛉研究会 (1998) ハネビロトンボ. 琵琶湖博物館研究調査報告 (10): 117

山本哲央・新村捷介・宮崎俊行・西浦信明 (2009) ハネビロトンボ. 近畿のトンボ図鑑: 199. (いこだ社)

山本悠紀夫 (1965) 宮前池の興味あるトンボ. 佳香蝶 17 (61): 31-32

山本悠紀夫 (1993) 愛知県豊田市から藤岡町にかけての丘陵地に分布するトンボ. 佳香蝶. 45(174): 19-29.

山本悠紀夫 (2000) 愛知県豊田市八草町から瀬戸市薬師川流域にかけてのトンボ. 佳香蝶. 52(203): 41-46

愛知県のミズイロオナガシジミの追加記録

大 曾 根 剛

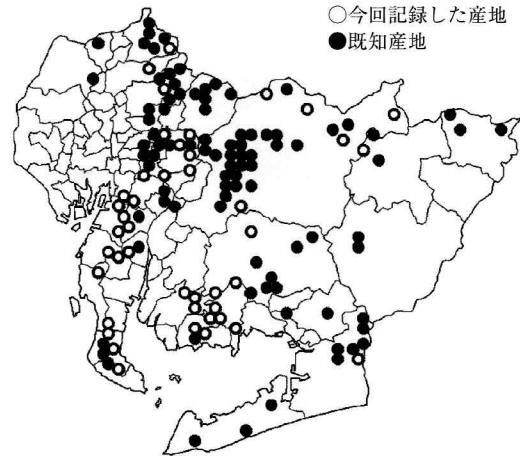
愛知県のミズイロオナガシジミは、尾張地方では主に平野部の丘陵地から低山地の雑木林で発生時期を注意すれば比較的普通に見られる種類である。しかし、同様に県内に広く分布するアカシジミとは異なり、公園などの極めて部分的にしか雑木林が残っていない場所でも生息することがある。また、発生数の変動が激しく、年によっては驚くほど多く見られる年がある反面、同じ場所でも全く見られないこともある。一方、矢作川以東の一部の西三河地方から北設楽郡の山地への移行帯や、南設楽郡・東三河地方などでは産地は限られ、個体数も少ない。

このように分布が平野部の丘陵地に偏っているため、特に人的活動の多く里山の荒廃が著しい都市部近郊では、既に多くの生息地が消失してしまっていると考えられ、今後も生息の確認ができないまま知らないうちになくなる場所も多いと思われる。そこで、今回、筆者が新たに確認した記録をまとめたので報告する。

記録

東三河：豊橋市雲谷町上ノ池，1♂，2009年5月30日；蒲郡市一色町坂角池，1♂2♀♀，2006年6月8日；設楽町田峰井戸沢，1♀，1994年7月3日。

西三河：岡崎市新居町，1♀，2005年7月27日；豊田市田圃町日向，1♂1♀，2007年6月11日；豊田市稲武町稲橋月ヶ平，1♂1♀，1999年7月4日；豊田市明川町伊勢神峠(旧足助町明川)，1♀，1999年6月29日；豊田市野林町(旧足助町野林)，2exs，1999年6月12日；同地，2卵，2001年2月11日；豊田市坂上町崩落山，1卵，2007年2月17日；西尾市善明町山田，4♀♀，1999年6月5日；同地，2♀♀，2006年6月8日；西尾市上羽角町羽根山，4♂♂，2005年6月9日；西尾市志貴野町向山(矢作川堤)，1♂1♀，2007年6月4日；西尾市志籠谷町古川緑地，1♀確認。



愛知県のミズイロオナガシジミの分布

2006年6月13日；西尾市八ツ面町八ツ面山，1♀，2007年6月4日；刈谷市井ヶ谷町小堤下～清水口，5♂♂，2005年6月4日；豊田市太田町(旧旭町太田)，1♀，1999年6月20日；豊田市旭八幡町(旧旭町八幡)，1卵，2002年2月24日；豊田市荷掛町(旧小原村荷掛)荷掛川上流，1♂，1993年7月4日；豊田市宮代町(旧小原村宮代)，1卵，1999年1月31日；吉良町宮迫茶白山，6♀♀，1999年6月5日；幸田町長嶺京ヶ峰，1♀，2000年6月9日；幸田町桐山水晶山，5♀♀，2000年6月9日；幸田町須美北山，1♀，1999年6月5日；幡豆町鳥羽笹頭，5♀♀，1999年6月5日；幡豆町八幡八幡上池，1♀，1999年6月5日；吉良町友国道ヶ坂，1♀，2006年6月8日；同地，1♀，2007年6月1日；同地，1♀，2008年5月28日；同地，3♀♀，2010年6月5日。

名古屋市：守山区大森，1♀，1999年6月13日；名東区明德緑地，3♀♀，1995年6月11日；名東区上社足廻間(猪高緑地)，1♂1♀，2005年5月29日；同地，4♂♂，2005年6月5日；2005年6月5日，1♂，名東区猪高町高針勢子坊(猪高緑地)；天白区天白町平針荒池下，2♂♂，2005年6月4日；天白区菅田3丁目(相生山緑地)，9exs，2006年6月10日；緑区大高町狐山(大高

緑地), 10exs. 2005年6月4日; 緑区大高町八洲ヶ淵(大高緑地), 5exs. 2006年6月10日; 緑区大高町文根山(大高緑地), 1♀, 2009年6月7日; 緑区大高町定納山, 1♀, 2009年5月31日.

尾張: 犬山市今井, 1♂, 2001年6月10日; 春日井市坂下町, 1♀確認, 2001年6月10日; 春日井市潮見坂, 1ex確認, 2001年6月10日; 小牧市大草, 1♂, 2001年6月10日; 瀬戸市南山口町, 2♀♀, 1994年6月11日; 長久手町熊張杖ノ洞池, 4exs. 1994年6月11日; 1995年6月11日; 長久手町岩作愛知県農業試験場, 2♂♂, 2005年6月5日; 長久手町岩作三ヶ峰, 1♀, 2006年6月10日; 日進市米野木町南山(愛知池), 1♂, 2005年6月5日; 東郷町諸輪富士塚, 1♀, 2007年6月11日; 東海市荒尾町南奥山, 1♀, 2009年6月7日; 同地, 1♂1♀, 2010年6月6日; 東海市加木屋町山之脇, 1♀, 2007年6月6日; 東海市名和町長生, 1♂2♀♀, 2009年5月31日; 同地, 3♀♀, 2010年6月6日; 大府市桜木町5丁目平和公園, 1♂, 2006年6月8日; 知多市佐布里松枝上納, 1♂2♀♀, 2007年6月6日; 東浦町緒川石根緒川新池, 1♂3♀♀, 2006年6月8日; 阿久比町板山地蔵池, 2♂♂, 2008年6月1日; 同地, 2♂♂, 2008年6月7日; 同地, 1♂, 2008年6月7日; 阿久比町板山東高根, 1♂, 2008年6月1日; 常滑市久米, 1♀, 2000年6月

10日; 武豊町富貴下別曾, 4♀♀, 1999年6月5日; 美浜町奥田, 1♂, 1997年6月8日; 美浜町古布, 1♂, 1997年6月8日; 美浜町布土, 10exs., 2000年6月10日; 美浜町布土美浜小池, 3♀♀, 1999年6月5日; 同地, 1♀, 2000年6月10日.

まとめ

今回の調査では、本種は従来記録のあった知多半島南部から北部、さらに名古屋市東部丘陵から愛岐丘陵まで連続的に分布していることが予想され、丘陵地の落葉広葉樹の二次林の再生林には特に広く生息していることを確認した。

また、三河湾北部の低山地にも広く分布することも確認した。この中で西尾市志貴野町・志籠谷町・八ツ面町八ツ面山の産地は、現在は田畑や住宅地に囲まれた環境的にも隔離・孤立した場所であるが、このように本種が生息することは、古い時代に周辺部の里山と接続していた確証と思われる。

岡崎市の北中部は生息環境が良好な場所が多いが、産地の数が非常に少なく記録は点在する程度であり、今回の筆者の調査でもほとんど確認できなかった。その原因としては、地史的な背景よりも二次林形成の歴史的な背景が関係しているものと考えられる。

タイワンタケクマバチを岡崎市で確認

城 殿 浩

外来侵入種と云われているタイワンタケクマバチ *Xylocopa tranquebarorum tranquebarorum* (Swederus, 1787) は、2006年5月に豊田市梅坪町と朝日町で採集された。その後、2009年1月に豊田田野見町で枯れた竹で越冬中の集団も発見された。筆者も5月に調査する機会を得て、新たに岡崎市で採集することができたので報告する。

◇豊田市松平志賀町, 10exs.; 同巴町, 2exs., 同岩村町, 2exs., 岡崎市細川町, 10exs. 城殿採集。

豊田市ではフジ, 岡崎市ではニセアカシアに訪

花していた。いずれの場所でも竹林があり、営巣場所があれば、どこでも採集は可能と思われた。花にはキムネクマバチも訪花していたが、花を巡る争うは見かけなかったし、営巣場所も異なるので、これら両種は今後とも共存して行くものと思われた。

参考文献

矢田直樹(2007)月刊むし(439): 39-40. 岡田正哉(2009)同上(469): 59-60.

三河湾周辺地域のオオツノカメムシ

山崎隆弘

オオツノカメムシ *Acanthosoma giganteum*

Matsumura, 1913 は、カメムシ目のなかでも大形で特異な形態をしていることから、特に注目される種のひとつとなっている。したがって全国から記録も多く、北は青森県から南は鹿児島県まで随所にわたっている。海外では朝鮮半島、中国、台湾、ベトナム、ラオスなどに分布する暖地系の種である。[愛知県におけるオオツノカメムシの記録について]

本県におけるオオツノカメムシに関する主な記録については次のものがあり、ここに紹介しておきたい。

①浅岡孝知(1986)「オオツノカメムシ篠島に産す」三河の昆虫(33):219。②浅岡孝知ほか(1991)「竹島・昆虫「豊川の自然を歩く」:87-89(風媒社)」。③浅岡孝知・家城司(1990)「愛知県の異翅目」愛知県の昆虫(上):51-65。④荻野欣三・友松和義(1954)「名古屋付近のカメムシ目録」:1-36(東海生物研究会)。⑤家城司(1987)「カメムシ類の越冬例」佳香蝶, 39(151):45-47。⑥美浜町(1992)美浜町誌本文編:56。⑦山崎隆弘(1974)「蒲郡市で採集されるオオツノカメムシについて」三河の昆虫(7):27-28。⑧山崎隆弘(1976)「珍カメムシ3題」三河の昆虫(27):114。⑨山崎隆弘(1980)「かめむし類」愛知県豊根村の動物:48-51。⑩山崎隆弘(1989)「三河地方に産するカメムシ類」虫譜:27(2):21-32。⑪山崎隆弘・浅岡孝知(1993)「三河湾島の昆虫」(自費出版)などがある。

[調査の概要]

これまでの本県における記録を整理してみると、内陸部では名古屋城、豊根村坂宇場、岡崎市本宿、蒲郡市遠望峰山、豊橋市石巻山、一宮町足山田などである。このことから愛知県内には広く分布していることが窺われる。しかし、いずれも一度に多数が採集されることは希のようだ。一方、南部地域の海岸部や三河湾の島嶼においては意外と多くの記録がみられる。知多市朝倉町、美浜町、一色町佐久島、南知多町篠島、幡豆町三ヶ根山、



図1. オオツノカメムシが採れた鳥羽市神島。灯台への山道、左手には伊良湖水道をは挟んで愛知県渥美半島がある。

蒲郡市竹島などがある。浜松市の渡辺一雄氏(1979)は、このことについて遠州地域を例にして、海岸地方に多いことを記述している。筆者もこのような経緯を踏まえて、三河湾周辺に関心を持ち調査を行ってきた。最近、当地域において偶然に数ヶ所から採集することができた。いずれも、これまでに記録のない場所からのものと思われる。

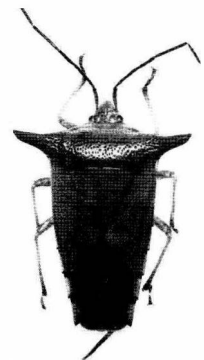


図2. オオツノカメムシ(三重県鳥羽市神島産)

[採集データ]

- 1ex., 三重県鳥羽市神島, 9. V. 2010. 山崎隆弘採集。
 3exs., 愛知県田原市小塩津町渥美の森, 29. IV. 2010. 山崎隆弘採集。
 1ex., 愛知県豊川市御津町御幸浜埋立地, 2. XI. 2008. 山崎隆弘採集。
 2exs., 愛知県蒲郡市相良町御堂山さがらの森, 12. V. 2010. 山崎隆弘採集。

[参考文献]

- 市橋甫ほか(1992)鳥羽市神島の昆虫, ひらくら, 36(4):219.
- 大野正男(1999)日本産主要動物の種別知見総覧(51)オオツノカメムシ(1), 東洋大学紀要教育課程編(自然科学)第43号:97-121.
- 渡辺一雄(1979)静岡県昆虫類, 静岡県の生物:71-75.(日本生物教育会静岡大会実行委員会)

愛知県に分布する希種のコメツキムシ (1)

大平 仁 夫

愛知県産のコメツキムシ類がまとめて記録されたのは、大平 (1990) による 147 種のリストが最初と思われるが、そのご穂積 (2003) は 2001 年までに 170 種になることを報告している。しかし、これは数の上でのことであり、種の同定に誤記と思われるものが若干あるので、それについては今後の課題である。また、愛知県から新種として記載されて、ここがタイプ標本の基産地とされている種については大平 (2008) が報告している。

ここでの希種は、他県ではそれほど珍しくないのに、愛知県では個体数が極端に少ない種を希種として扱い報告することにした。

1. *Anostirus (Ipostirus) daimio* (Lewis, 1894)

ダイミョウヒラタコメツキ (図 A)

県内の分布の概要は大平 (2000) が報告したように、設楽町と豊根村が分布の中心になっており、段戸裏谷や茶臼山などである。しかし豊田市足助町足助で 1 雄が採集 (17-V-1981) されている。また、旧稲武町 (井山, 大野瀬) からも古い記録がある。しかし、最近では採集記録がないので、もう県内では採集が困難になったかも知れない。

2. *Acteniceromorphus kurofunei* Miwa, 1934

ミヤマフトヒラタコメツキ (図 B)

体長は 11~15mm 内外、体は扁平状で両側が平行状をし、暗真鍮色の金属光沢を有する種である。本種は本州から九州に至る各地の広葉山林に広く分布する種であるが、県内では旧富山地域では若干の記録があるが、旧豊根村では大平 (1984) が兎鹿島から雄個体の採集記録 (5-V-1982) があるに過ぎない。本種は前種と同様に長野県から南に伸びて分布する寒冷地系の代表種であるが、ここでの分布範囲は前種より狭いように思われる。

3. *Gamepenthesis similis* (Lewis, 1894)

ヒメキマダラコメツキ (図 C)

体長は 4~5mm で黒色、光沢があり、上翅には図示したような特徴のある黄斑を有するので、類似種との識別は容易である。本州から九州にかけての山地のノリウツギやリョウブなどの花に飛来し、灯火採集でも得られているが、県内では、大平 (1995) による段戸裏谷での古い採集記録 (19-VI-1952) があるのみである。しかし、裏谷からは最近では得られていないので、ここでは絶滅した可能性も考えられる。

4. *Chatanayus ishiharai* (Nakane et Kishii, 1954)

ウスカバイロコメツキ (図 D)

体長は 10mm 内外で黄褐色をした暖地系の種である。県外では石川県~岐阜県~愛知県ライン以西の本州から九州に分布している。幼虫は低地の湿潤地の土壤中に生息するため、水田の畦や池の土手などに生息しているので、成虫もその周辺に分布している。県内では旧豊川市、旧岡崎市、旧豊田市などから点々と古い記録があるが、岡崎市産は大平 (1990) がまとめて報告している。本種の生息環境は、農地整備や水田の乾田化などの影響を受けて、絶滅に近い状況にあると思われる、大平 (2006) による豊田矢並町からの採集記録 (14-VII-1998) 以降の記録はない。

引用文献

- 穂積俊文 (2003) 「愛知県の昆虫・甲虫目」の追加記録 (12), 2001 年のまとめ。佳香蝶, 55(213): 5-7.
 大平仁夫 (1973) 1950 年頃の段戸山のコメツキムシ。
 佳香蝶, 25(97): 99-101.
 (1984) 原田猪津夫氏採集のコメツキムシ (II)。佳香蝶, 36(138): 17-19.
 (1990) 愛知県の昆虫 (上) - コメツキムシ科 - : 367-382. (愛知県)
 (2000) 三河地方で採集されるコメツキムシについて (19)。

佳香蝶, 52(202): 31-32.

(2008) 愛知県産コメツキムシ類の分布の概要と新種の基産

(2006) ウスカバイロコメツキ豊田市に分布。三河の昆虫,
(53): 626.

地となった種について。佳香蝶, 60(234): 47-51.

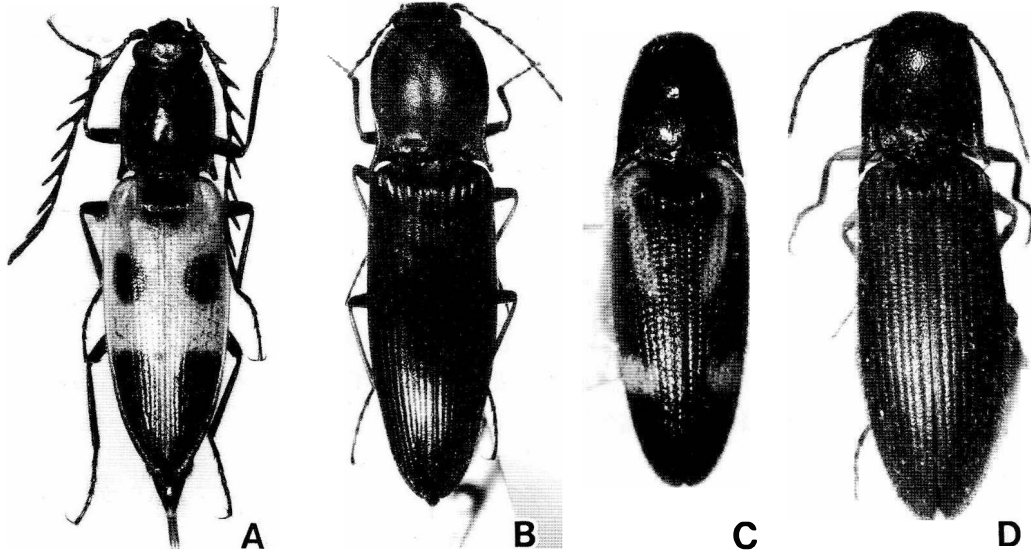


図 A, ダイミョウヒラタコメツキ (♂), 体長 11mm 「段戸裏谷, 4-V-1982, 竹内採集」; B, ミヤマフトヒラ タコメツキ (♀), 体長 15mm 「富山, 5-V-1978, 松野採集」; C, ヒメキマダラコメツキ (♀), 体長 4.5mm 「段戸裏谷, 3-VIII-1970, 大平採集」; D, ウスカバイロコメツキ (♀), 体長 9mm 「岡崎市明大寺町, 25-VII-1954, 大平採集」

岡崎市の 2 箇所でムラサキツバメの繁殖を確認

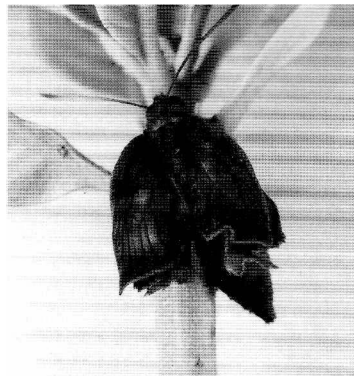
柵木 宗孝・山本 英治

岡崎市市内でのムラサキツバメ (*Narathura bazalus*) の成虫の観察記録は、今までにも若干報告されているが、近年の気温の温暖化で分布を広めているように思われる。筆者らは 2010 年に、市内の 2 箇所で繁殖を確認したので報告する。

◇岡崎市岡町(おかざき世界子ども博物館敷地内) 22-XII-2010: マテバシイ樹より 7 個の羽化殻を採集。

◇岡崎市上里(堤下公園) 23-XII-2010: マテバシイ樹で羽化直後の 1 ♀ 成虫を採集。(図示した個体)

2011 年の冬は異常に寒かったので、今後その影響も調べたいと思っている。



羽化したばかりの成虫 (23-XII-2010)

三重県鳥羽市神島のカメムシ類

浅岡孝知

行政上は三重県鳥羽市であるが、距離的には渥美半島から近い神島に、本会の行事として参加してきたので、カメムシ類についての報告をする。

神島の昆虫については、これまで何度か報告例が散見されているところである。三重県のグループが詳しくまとめられている文献がある。お世話をいただいた山崎隆弘氏に感謝を申し上げる。また、当日参加された水野宏、伊藤昭博両氏にも感謝を申し上げる。調査日は5月9日(日)で快晴の元楽しく歩を進めることができた。

目録

1. シダヨコバイ科 Agalliidae
 - 1) シダヨコバイ *Japanagallia pteridis* (Matsumura, 1905). 3exs.
2. クロヒラタヨコバイ科 Penthimiidae
 - 1) クロヒラタヨコバイ *Penthimia nitida* Lethierry, 1876. 1ex.
3. キジラミ科 Psylliidae
 - 1) ベニキジラミ *Psylla coccinea* Kuwayama, 1908. 2exs.
4. オオホシカメムシ科 Largidae
 - 1) ヒメホシカメムシ *Physopelta parviceps* Blore, 1931. 1ex.
 - 2) オオホシカメムシ *Physopelta gutta* (Burmeister, 1834). 1ex.
5. アメンボ科 Gerridae
 - 1) ヒメアメンボ *Gerris latiabdominis* Miyamoto, 1958. 1ex.
6. サシガメ科 Reduviidae
 - 1) ビロウドサシガメ *Ectrtychotes andreae* (Thunberg, 1784). 1ex.
7. ナガカメムシ科 Lygaeidae
 - 1) クロスジヒゲナガカメムシ *Pachygrontha similis* Uhler, 1896. 1ex.
 - 2) イシハラナガカメムシ *Pylorgus ishiharai* Hidaka et Izzard, 1960. 1ex.
- 3) オオモンシロナガカメムシ *Metochus abbreviatus* (Scott, 1874). 1ex.
8. ヘリカメムシ科 Coreidae
 - 1) ホシハラビロカメムシ *Homoeocerus unipunctatus* (Thunberg, 1783). 2exs.
 - 2) ツマキヘリカメムシ *Hygia (Hygiolopaca)* (Uhler, 1860). 3exs.
9. マルカメムシ科 Plataspidae
 - 1) ヒメマルカメムシ *Coptosoma biguttulum* Motschulsky, 1859. 2exs.
 - 2) マルカメムシ *Megacopta punctatissima* (Montandon, 1894). 2exs.
10. カメムシ科 Pentatomidae
 - 1) アカスジカメムシ *Graphosoma rubrolineatum* (Westwood, 1873). 1ex.
 - 2) ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus* Walker, 1867. 1ex.
 - 3) チャバネアオカメムシ *Plautia crossota stali* Scott, 1874. 2exs.
 - 4) マルシラホシカメムシ *Eysarcoris guttiger* (Thunberg, 1783). 2exs.
11. ツノカメムシ科 Acanthosomatidae
 - 1) エサキモンキツノカメムシ *Sastragala esakii* Hasegawa, 1959. 1ex.

以上、11科19種を確認することができた。この時期には、コウチュウ類はかなり多くの種を見いだすことができる。コメツキムシ類では、ヒゲコメツキ・アカアシコハナコメツキなど8種を見いだすことができた。これが神島の春季の様子である。以前に訪れた時に比べると、神島灯台が無人工化となり、港周辺の店が少し淋しくなったなあという印象である。

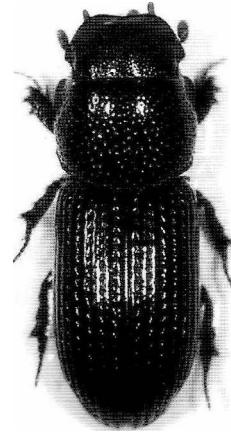
クロツツマグソコガネを灯火にて採集

春 田 祥 博

クロツツマグソコガネは、体長3～4mm程度の小型のフン虫で、主に枯れ木や落ち枝などの樹皮下や内部から通年得られる。成虫と共に幼虫や蛹も見つかる事があることから(堀口,1997,1999、乙部,2007)、材の中で繁殖を繰り返しているものと思われる。また、成虫は稀に犬糞(金井・堀口,2002)や羽毛(川井,2007)からも得られるようである。

本種の分布域は北海道から南西諸島までと幅広いが、愛知県内での記録は少ない。

筆者は、夜間、灯火に飛来していた本種を採集しているので報告しておきたい。



クロツツマグソコガネ

Saprosites japonicus Waterhouse,1875

愛知県豊川市御津町広石御津山

22-VI-2010, 2exs. (灯火にて採集) (図)

同じクロツツマグソコガネ族 Eupariini でも、ニセツツマグソコガネ属 *Ataenius* は灯火によく集まることが知られているが、クロツツマグソコガネ属 *Saprosites* である本種の灯火での採集例は、筆者の知る限り見聞きしたことがない。

ちなみに、採集した2頭のうち、1頭は灯火下のクモの巣にかかって死んでいた個体で、もう1頭は別の灯火下のコンクリート上に佇んでいた個体である。

また、同地では落ち枝の樹皮下からも本種を採集しているので併せて報告しておく。ある程度の湿度と硬さを保った落ち枝であれば、特に樹種を問わず採集出来た。

愛知県豊川市御津町広石御津山

12-XI-2010, 8exs. (樹皮下より採集)

末尾ではあるが、本種の生態についてのアドバイス及び関連文献を提供して頂いた戸田尚希氏と

堀口徹氏に感謝申し上げます。

参考・引用文献

堀口徹,1997.クロツツマグソコガネの採集例,
LAMELLICORNIA, 13: 47-48.

堀口徹,1999.群馬県産食糞性コガネについて,乱舞,9号:
124-125

金井直樹・堀口徹,2002.群馬県における食糞性コガネムシ
の分布について,乱舞,11号:124

川井信矢他,2005.日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食
糞群:156-161.

豊田市,2005.豊田市自然環境基礎調査報告書(昆虫編),
179

乙部宏,2007.三重県でクロツツマグソコガネをヤシ類から
採集,鯉角通信,第14号:54-55.

川井信矢,2007.羽毛から得られたクロツツマグソコガネ,
鯉角通信,第15号:18.

戸田尚希他,2009.矢作川河畔林調査-コウチュウ分布から
見た河川敷環境-,矢作川研究No.13:87

新城市作手の灯火にて採集したフン虫3種

春田 祥博

筆者は新城市作手の灯火において、愛知県下では比較的記録の少ない下記3種のフン虫を採集しているので報告しておく。

1. コブナシコブスジコガネ

Trox nohirai Nakane, 1954

愛知県新城市作手保永

22-VI-2010, 1ex.

ジュースの自販機の明かりに来ていた個体を採集した。本種は近年、フクロウの巣内で生活することが明らかにされた種である(稲垣, 2007)。

県下では、灯火での採集記録(戸田, 1998)の他、人為的に設置されたフクロウの巣箱から採集された記録(真野・杉山, 2008)などがある。

本種は全国に幅広く分布するが、灯火や羽毛トラップでまとまって得られることは少ない。

2. ムネアカセンチコガネ

Bolbocerosoma nigroplagiatum (Waterhouse, 1875)

愛知県新城市作手保永

30-VI-2006, 2exs.

道路脇の外灯下にて採集。芝生のある公園や牧場などに主に生息する。

全国における本種の分布域は広いが、詳しい生態は未だよく分かっていない。ゴルフ場に多数生息しているという興味深い記録(藤岡, 2006)もある。

なお、作手においては過去に山崎(1990)の記録がある。

3. セスジカクマグソコガネ

Rhyparus azumai azumai Nakane, 1956

愛知県新城市作手保永

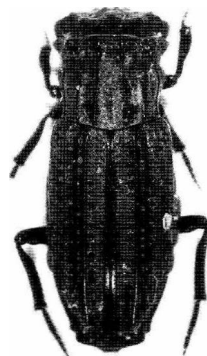
30-VI-2006, 1ex.

ジュースの自販機の明かりに来ていた個体を採集。県下での記録は少ないが、戸田尚希氏の私信によれば豊橋市の伊古部辺りには多いとのことである。

ある。

本種も詳しい生態がほとんど分かっていない。

最後になるが、発表に際し諸事お世話になった戸田尚希氏に深く感謝申し上げる。



[セスジカクマグソコガネ]

参考・引用文献

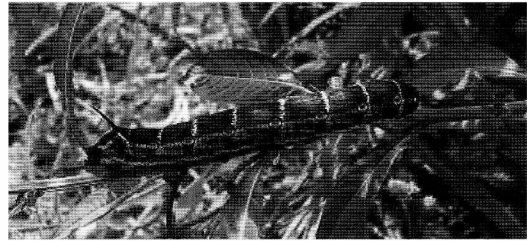
- 穂積俊文他, 1990. 愛知県のコガネムシ類, 愛知県の昆虫(上): 339-340.
- 山崎隆弘, 1990. 南設楽郡作手村で採集した甲虫類, 三河の昆虫(37): 286.
- 戸田尚希, 1998. 愛知県旭町でコブナシコブスジコガネを採集, 佳香蝶, 50(195): 42.
- 戸田尚希他, 2001年. 旭町のコウチュウ目-愛知県東加茂郡旭町-, 旭町の昆虫: 109-110.
- 川井信矢他, 2005. 日本産コガネムシ上科図説 第1巻 食糞群: 21, 36-37, 172.
- 藤岡昌介, 2006. ゴルフ場のムネアカセンチコガネ, 鯉角通信, 第13号: 67.
- 稲垣政志・稲垣信吾, 2007. コブナシコブスジコガネ *Trox nohirai* Nakane の生態について, 鯉角通信, 第15号: 7-10.
- 真野徹・杉山時雄, 2008. フクロウの巣箱から確認された動物の骨格, 西三河野鳥研究年報 11: 1-6.

ヒレタゴボウを食べるセスジスズメの幼虫

小 鹿 亨

セスジスズメ *Theretra oldenlandiae* は、県内の平野部に極めて普通に生息するスズメガのなかまである。本種はほぼ日本全土に生息していて、成虫は初夏から秋にかけて発生を繰り返す。幼虫はヤブガラシ、ノブドウ、ハウセンカ、サトイモ、サツマイモなど、いろいろな植物の葉を食べることが知られている。

筆者は、本種の幼虫がヒレタゴボウ（アメリカミズキンバイ）*Ludwigia decurrens*（アカバナ科チョウジタデ属）を食べている場面を目撃しているため、食草の一例として報告する。ヒレタゴボウは、北アメリカから熱帯アメリカ原産の外来植物で、現在は水田の周辺にも雑草として極めて普通に観察することができる。このためか、以下に示す記録以外にも、今年本種の幼虫を水田周辺の雑草の中でよく観察できた。



セスジスズメ終令幼虫 2010年9月2日 安城市今池町上倉

《データ》セスジスズメ *Theretra oldenlandiae*

2010年9月2日 幼虫10頭以上をヒレタゴボウで目撃 安城市今池町上倉

2010年8月25日 幼虫数頭をヒレタゴボウで目撃 安城市里町出先

なお、本種の幼虫を同定していただき、食草についてもご教示をいただいた、豊田市矢作川研究所の間野隆弘氏に感謝いたします。

安城市矢作川河川敷でヤクシマルリシジミを記録

小 鹿 亨

ヤクシマルリシジミ *Celastrina puspa* は、紀伊半島、四国の太平洋側や宮崎、鹿児島以南に分布している南方系の蝶である。♂の翅表のコバルトブルーがとても美しい。

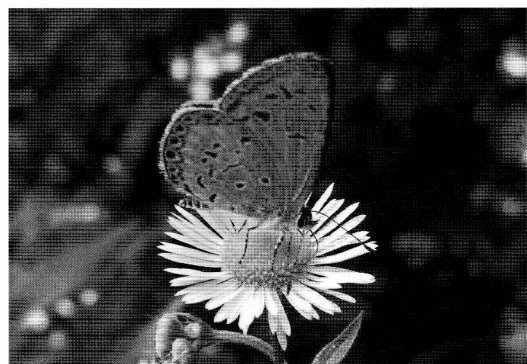
本種は分布を東へ拡大していることが知られている。すでに愛知県内にも侵入してきており、知多半島や渥美半島などでは普通に観察されるという話も聞く。筆者は安城市の矢作川河川敷で、本種（写真）を観察しているため記録として報告する。

《データ》2010年6月25日

ヤクシマルリシジミ *Celastrina puspa*

1♂目撃 安城市村高町矢作川河川敷

観察した個体は、ヤナギ類の河畔林の林縁部に生えているヒメジョオン（キク科）の花に訪花していた。当日、およびその翌日も周辺を探したが、



ヤクシマルリシジミ♂ 2010年6月25日 安城市村高町矢作川河川敷

発見できず追加記録は得られなかった。本種はノイバラ・ウバメガシ・ヤマモモなど、いろいろな植物を食樹にすることが知られており、今後もさらに内陸部へ侵入していくものと考えられる。

愛知県岡崎市でサツマジミを確認

判 家 卓 司

2010年7月10日(土)午前10時過ぎ、岡崎市石原町(旧額田郡額田町)のくらがり溪谷において、サツマジミ♂と思われる1頭を確認し、デ

ジタルカメラで撮影したので報告する。杉坂美典氏によれば、岡崎での初記録である。



愛知県岡崎市でヒメクロサナエを確認

判 家 卓 司

2010年5月5日(水)午後12時過ぎ、岡崎市石原町(旧額田郡額田町)のくらがり溪谷において、ヒメクロサナエ♀と思われる1頭を確認し、デジタルカメラで撮影したので報告する。鈴木栄

二氏によれば、岡崎では古い記録があるだけとのことである。

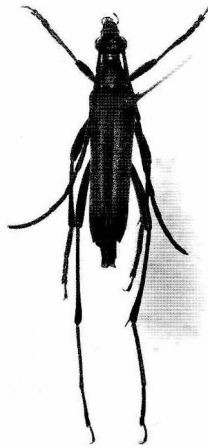


ジャコウホソハナカミキリの採集例

蟹 江 昇

ジャコウハナカミキリ
Mimostrangalia dulcis(Bates)
は、三河地方を中心に中山
帯からブナ帯まで各地に分
布している。しかし、記録
のほとんどは幼虫の加害材
を採集、飼育して羽化させ
たもので、野外での採集例
は少ない。

本種の幼虫はタンナサワ
フタギなどの腐朽木につく
ことが知られており、成虫
は初夏から夏にかけてノリウツギやタリの花に集
まる。しかし、成虫の訪花はは気温が上がる日昼
に見かけることは少ないので、成虫の採集記録が
少ない要因になっているようである。



このたび、大平仁夫氏が本宮山の山頂部のツツ
ジの花に飛来していた雌雄を採集されのでここに
記録する。同氏によれば、山頂部での採集時間は
午後3時ころ晴天日であったそうである。

採集データ：1♂1♀、岡崎市宮崎町(本宮山山頂)、
6-VI-2010、大平仁夫採集。

引用文献

河路圭吾(1982)三國山で採集されたカミキリムシ、佳香
蝶, 34(129):3-7.

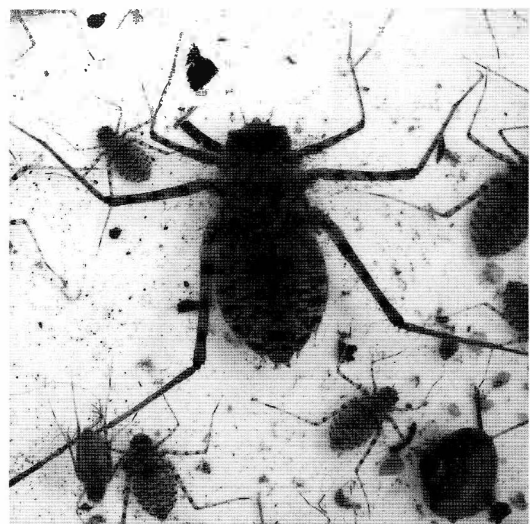
湯沢信久ほか(1990)愛知県のカミキリムシ科、愛知県の
昆虫(上): 389-433.(愛知県自然保護課)

岡崎市でキイロヤマトンボを確認する

山本 英治・柵木 宗孝

キイロヤマトンボ(*Macromia daimoji*)は、愛知県内
では矢作川水系に分布が知られているが、レッド
データ愛知2009ではNT(準絶滅危惧種)にラン
クされており、岡崎市からは古い記録があるだけ
である。

筆者らは本種のヤゴを矢作川本流で確認してい
るので記録する(図)。本種のヤゴを見いだしたの
は西蔵前町地内で、砂地の河床に薄く泥をかぶっ
た流速の緩い河岸である。そこには体長7mmか
ら31mmの終齢までのヤゴを17-X-2009と4-XII-
2010にそれぞれ若干個体を見出した。



岡崎市でコケシマグソコガネを採集

鈴木 栄一

コケシマグソコガネ *Myrhessus samurai* は公園やゴルフ場などの芝生や河川敷の草地に生息する体長3mmほどの甲虫である。

豊田市では千石町、御立町、竜宮町～秋葉町といった矢作川に沿った地域から記録されている。

筆者は岡崎市を流れる矢作川左岸の仁木町内の河川敷でピットホールトラップにより1頭を採集することができたので記録する。

採集記録

岡崎市仁木町 矢作川河川敷 lex 07- VI -2010.

引用文献

豊田市 (2005) 豊田市自然環境基礎調査報告書.

川井信矢ほか (2005) 日本産コガネムシ上科図説.

第1巻. 食糞群.



岡崎市でタイワンウチワヤンマの羽化殻を確認

鈴木 栄二

タイワンウチワヤンマ *Ictinogomphus pertinax* は南方系の種で、温暖化の影響からか、その分布を拡大しているといわれている。

西三河地方では成虫が2009年に2例(判家、吉鶴ほか)、写真により確認され、報告(2010)されている。

筆者は岡崎市庄司田1丁目 庄司田池で羽化殻を確認したので報告する。

採集記録

岡崎市庄司田1丁目 lex 27- VII -2010.

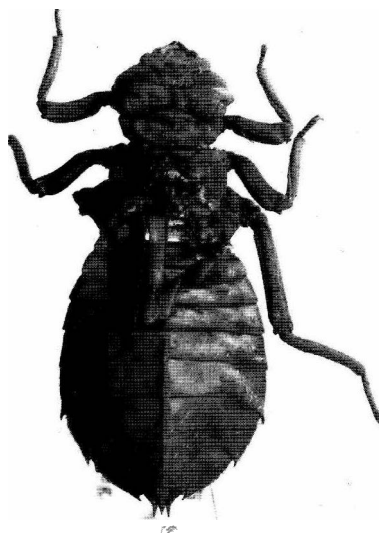
引用文献

判家卓司 (2010) 岡崎市で未記録の3種の昆虫について.

三河の昆虫 (57) : 716.

吉鶴靖則他 (2010) 西三河地域で記録が少ないトンボの

記録. 三河の昆虫 (57) : 719



神島採集記

伊藤 昭博



(船上から見る神島)



(標高172mの最高地点の灯明山の三角点)



(島には階段が多く神島灯台へと続く道)



(島内の景観)

2010年の採集会は、山崎副会長の積極的な提案により渥美の森、神島、茶臼山、三国山の4ヶ所に決まったが、三国山については悪天候のため中止となった。このうち、自分はアサキマダラの観察と三島由紀夫の潮騒で有名な三重県神島だけは行ったことがなかった。

そこで、ここには5月9日の神島採集会についてのみ記述したいと思う。当日は天気恵まれ、参加者は水野氏、浅岡氏、山崎氏と、自分の4人である。伊良湖の伊勢フェリー定期船乗り場の片隅にある乗船場に集まった。高速艇で神島まで15分で行けるが、欠点は運賃が高いことである。船上から伊良湖岬をバックに神島(標高171m)の景色を堪能しながら、上陸した。島特有の狭い階段と家の配置を眺め急坂を登ると、中腹の八代神社に到着した。神主にあつたが、どうも話好きのような感じがしたので、挨拶程度にして、先へと足を運ぶことにした。自分は写真が目的であるが、水野氏はチョウを、浅岡氏と山崎氏ビーティング

に夢中で、オオツノカメムシやウシカメムシ、コムツキムシ、ハムシなどそれぞれに収穫があったようだ。東回りのコースをとると、はるかに伊良湖岬が見えた。更に進むと、愛の誓いの観光スポットがあった。恋人の聖地として全国に30ヶ所の一つらしい。灯明山の三角点を踏みしめて、神島灯台、旧陸軍の監的哨跡、海岸に出るとカルストの白い岩肌と島一周の観光コースは目を楽しませてくれた。

5月になれば、蝶の舞う季節であるのに、採集も蝶の画像も得るものは少なかったのは残念に思えた。その代わりに植物として、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、キケマン、サンザシ、タツナミソウ、ヒメハギ等を写すことができた。最後に一言、一度は来ても良い島である。

新シリーズ・昆虫と私(9)

吉 鶴 靖 則

幼稚園に入る前、東京で生まれ育った私は、腕にハエが留まったぐらいで大泣きするような子どもだったそうです。それが親の転勤に伴い、名古屋市緑区鳴海町で幼稚園に入ると、アミを持って虫採りに走り回る昆虫少年へと大変身をしたそうで、小学2年生のときから、展翅板を用いて本格的に標本を作るようになったようです。

大学の専攻は鹿児島大学地学科の古生物学でしたが、これには現在の生物や環境を知らないと過去が再現できないこともあり、好きな化石などの地学と昆虫などの生物学が融合できる学問だったことが選んだ理由の一つでした。

社会人になってから、バブル崩壊などのあおりで、次々と勤務先が無くなっていき、気がつけば正社員での就職先がなくなっていました。どうせ安い給料なら好きな道に行きたいということもあり、現在は嘱託で豊田市自然観察の森でレンジャ

ーをしています。昔から続けてきた趣味の内容が、生物や地学などの広範な知識となり役立ったこと、所蔵標本などで展示に寄与できたこと(なんと、小学2年生時の作成標本も大活躍!), その過程で素晴らしい先生方にお会いできたことなど、いろいろな運命の糸と不思議な縁を感じ、現在の仕事ができることに感謝する日々です。



新シリーズ・昆虫と私(10)

桐 山 功

甲虫を本格的に研究し始めたのは50年以上も前、エグリトラカミキリの生態を調べているときだった。まとめた論文を大平先生に校閲してもらい、図版も作っていただいた。その当時はカミキリムシとその寄生蜂の関係を研究している人はあまりなく、貴重な研究だと励まされたことを覚えている。そのとき得た寄生蜂も新種として北大の渡辺千尚博士から記載された。

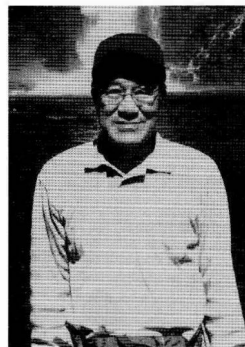
その後、カミキリムシ研究の大家大林一夫氏との出会いがあり、本格的にカミキリムシの採集にのめり込んだのだが、その一方で、当時まだ殆ど分類が手付かずだったジョウカイボン科を研究してみないかと同氏に誘われたのが、1965年だった。

ジョウカイボン科を含む軟鞘類の古典であるKiezenwetterの記載論文を筆写させてもらったり、Wittmerの書いた記載文の別刷を戴いたりして軟鞘類の面白さ、奥深さを知ったわけである。

定年退職後はジョウカイボン科を追って各地の温帯広葉樹林を採集して回り、その分布の概要を知ることができた。

1965年頃、日本産が僅か6種であったコガタクビボソジョウカイ属 *Asiopodabrus* も、現在で

は100種を越える有様と成り、車を利用して採集ができる内はと、老骨に鞭打ってこれらの研究を続ける毎日である。



新シリーズ・昆虫と私(11)

金田吉高

学校でも近所でも悪ガキだった自分が、一度だけ校長先生から虫のことで褒められたことがあった。そのことが今の虫屋としての原点であったように思う。

虫採りには最適な環境の信州で大学時代を過ごせたことも、虫採りにのめり込む一因になったと思う。とりわけ蝶に関しては、高校時代では夢の世界であったものが、大学の窓から見える近くの山々で採集できるのである。毎日講義をさぼり、採集に出かけたものだった。大学一年のとき、姨捨山と云うところでオオルリシジミを採集していた折、若い虫屋に出会った。いろいろ話を聞いてみると三重県からやってきたという高校生だっ

た。すごい虫屋が世の中にはいるものだと思った。それ以来ずっと交流している。

趣味と言えるものは虫採り以外は何もないが、同じ趣味の仲間と三十数年もおつきあいをしてもらっているなど、人間交流は自分の宝物だとつくづく思っている。体の動く限り、このすばらしい趣味を続けて行きたいし、続けられる自然環境が残っていて欲しいと願っている。



◇三河昆虫研究会の総会◇

平成 21(2009)年度の総会は、竜美丘会館で平成 22(2010)年4月4日の13:00~17:00に行われました。

例年のように事務報告ののち、名古屋大学大学院生命農学研究科の大場裕一博士による「コムシ類のバーコードプロジェクト」の口演があり、最近のこの研究分野についての理解を深めることができました。その後、出席者による話題提供や資料回覧などがあり、「三河野生生物研究会」の出版物や会員提供の文献類の販売などもあり、旧交を暖めたりした26名出席の楽しい総会でした。

総会出席者(順位不同)

山本英治、柵木宗孝、吉鶴靖則、金田吉高、
早川 忍、長谷川道明、松井直人、小鹿 亨、
小鹿登美、判家卓司、岩崎 博、久永和彦、
伊藤昭博、喜多亮介、中根吉夫、桐山 功、
蟹江 昇、豊島健太郎、山崎隆弘、杉坂美典、
大平仁夫、大場裕一、岩月 学、浅岡孝知、
白井和伸、城殿 浩



三河昆虫研究会総会：竜美丘会館(4-IV-2010)